

## 千里の鳥・万博の鳥(第97回)「エナガ」(2020年12月)

落葉樹の葉が落ちて観察しやすくなる頃、エナガはシジュウカラ・ヤマガラ・メジロ・コゲラなどと「カラの混群」をつくり、林の中を連れ立って移動している。

エナガは嘴(くちばし)の先端～尾の先までの体長は14cmあるが、その半分は尾なので、体重は7～8g(=1円玉7～8個の重さ)しかなく、大阪近郊で観察できる小鳥の中ではクイタダキに次いで身の軽い鳥となっている。

エナガはその軽い体を長い尾でバランスをとりながら、込みあった枝の間を飛び回るが、人(観察者)がいても恐れず、時には手を伸ばすと届きそうな所まで近づいてくることがあり、人気のもととなっている。

「カラの混群」のメンバーは一緒に行動しながらも、それぞれ自分の好きな異なるエサを探している。コゲラは木の幹に住む虫を探し、ヤマガラは硬い木の実が好き、シジュウカラは昆虫・木の実を探し、メジロは甘味が好きで花の蜜、そしてエナガは小さな昆虫・アブラムシを食べるなどで、エサの競合は思いのほか少ない。それぞれの鳥が餌を見つけ食べ終えるまでの時間に早い遅いがあるが、エナガは時間が短いためか、混群の先頭に動き始める水先案内人となっている。

トップのエナガからしんがりのコゲラまで、くっついたり離れたりしながらも、結局はエナガから遅れないよう移動しており、いつの間にか混群の小鳥が周りにいなくなって、静かになる。

この、混群の最大のメリットは、オオタカ・ハイタカなど外敵の早期発見。どの鳥も移動するときは警戒していても、採餌中は危険を忘れて食事に熱中しているが、行動パターンが異なるいろんな種が一つの群れにいて、誰かが食べているときに誰かが警戒していることになる。

今月の写真(有賀氏)のエナガ、目の上の瞼(まぶた)の黄色が良く見える。幼鳥の瞼は赤いので、来年の5月頃確認してほしい。

エナガ(柄長)の名前の由来は、体長の半分を占める尾の長さ、柄の長い柄杓(ひしゃく)に例えられて名づけられたことが、写真からもよくわかる。また本州で見られるエナガは写真のように、黒く太い眉斑が背につながっているが、北海道に住む亜種シマエナガは黒い眉斑が無く、頭部全体が白いので更に愛らしい。

12月に入って大阪近郊で越冬する冬鳥が勢ぞろいし、落葉樹の葉が落ちて鳥が見やすいことから、バードウォッチングが最も楽しい季節となった。

コロナ禍で多数の人の集まる探鳥会はお休みにせざるを得ないが、三密を避けマスク着用で、ご自分のフィールドを見つけて、バードウォッチングを楽しまれてはいかが。

\*\*\*\* 写真 \*\*\*\*

種名:エナガ

撮影日:2019年12月12日

場所:万博公園

撮影:有賀憲介

\*\*\*\*\*

### 万博探鳥会、吹田野鳥の会探鳥会 新年度も中止を継続

日本野鳥の会大阪支部の万博公園定例探鳥会、そして吹田野鳥の会は12月まで探鳥会を中止としていましたが、コロナ感染が拡大していることから、新年度も中止を継続することにしましたので、ご了解ください。

